

(様式第1号)

令和2年10月7日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 様

領域名： 認定介護福祉士養成研修導入

科目名： 認定介護福祉士概論

単位数： 1単位

認証申請する研修の名称： 認定介護福祉士養成研修

団体名： 公益社団法人 東京都介護福祉士会

団体事務所の所在地： 〒135-0003 東京都江東区猿江 1-3-7

パーク・ノヴァ猿江恩賜公園 102号

電話： 03-5624-2821

FAX： 03-5624-9650

E-mail： takagi_t@tokaigo.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者： 会長 永嶋 昌樹

申請責任者： 内田 千恵子



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	



(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	令和 2 年 10 月 7 日
申請団体名	東京都介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 永嶋 昌樹
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	内田 千恵子
団体住所	〒135-0003 江東区猿江 1-3-7 パーク・ノヴァ猿江恩賜公園 102 号
同 Tel・Fax	Tel : (03)-(5624)-(2821)
メールアドレス	Fax : (03)-(5624)-(9650) E-mail <u>tokaigo.taccw@gmail.com</u>
申請対象の領域	領域名 : 認定介護福祉士養成研修導入
科目名 (単位数)	科目名 : 認定介護福祉士概論 (1 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認定介護福祉士養成研修導入	
科目名	認定介護福祉士概論（認定介護福祉士の役割と実践力）	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修全体の導入として、認定介護福祉士に求められる役割、本研修で獲得すべき知識、実践力と、本研修全体の組み立てについて理解させる。 ・介護現場の様々な問題がなぜ起きるのかについて、介護観・支援目標の共有化など、チーム運営の視点で把握するとともに、自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を理解させる。 ・自ら考える力・自ら学ぶ力の重要性を改めて確認させる。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認定介護福祉士養成研修の体系を理解し、学習計画を立てる。 ・認定介護福祉士に求められる役割と実践力について説明できる。 ・介護現場でおきる問題について、チーム運営の視点で分析できる。 ・自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を説明できる。 ・自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのように影響しているかを自覚する。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ・介護をめぐる社会的動向（地域包括ケアシステムと医療・介護連携等）と介護福祉士の役割の変化 ・認定介護福祉士に求められる役割と実践力（根拠ある生活支援、介護職のチーム運営・マネジメント、職種間連携、地域連携） ○介護現場における様々な問題とその要因 <ul style="list-style-type: none"> ・職種間または組織間に起こりやすい問題 ・利用者への関わり方や介護観の相違により起きる問題 ○チーム運営と職種間連携、求められるリーダーシップ <ul style="list-style-type: none"> ・チームを構成する職種間連携各職種の役割・機能の理解 ・チームケア・チームアプローチとは何か ・チームにおける介護観・援助目標の共有化 ・チーム内・職種間の調整 ・チームメンバーとのコミュニ 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前課題①（2時間） <p>事前に送られる認定介護福祉士説明資料を読み、認定介護福祉士養成研修の体系や認定介護福祉士の仕組みが創設された経緯等について自己学習する。</p> ○事前課題②（2時間） <p>自分の属する介護職チームの状況、及びそこにおいて生じた組織的課題と、その課題を解決した事例についてA4用紙1枚程度でまとめ持参する。現在、介護職チームに属していない者は、以前のチーム、または身近なチームとしてもよい。</p> ○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性（3時間） <p>（講義）まず、認定介護福祉士養成研修受講に当たり、認定介護福祉士の役割の理解促進のため、介護をめぐる社会的動向と介護福祉士及び介護職チームの役割の変化について、尊厳、自立等の介護・介護福祉の理念を視点に、日常生活の営み支援及び地域包括ケアシステムの展開を学ぶ。</p> <p>研修受講に必要な、認定介護福祉士に求められる役割と実践力の理解促進のため、地域医療・介護保険・地域福祉の3つの視点から、地域包括ケアの展開、介護福祉実践の展開を説明し、多職種協働のチームケア、介護職チームの重要性とその課題を学ぶ。</p> ○介護現場における介護職チームの運営に関わる様々な問題とその要因（2時間） <p>（演習）研修受講に必要な、介護職チームの運営に必要な問題理解を深めるために、事前課題②をグループ内で共有し、課題の要因と、受講者である自分がとるべきであった行動、解決できた要因についてディスカッションする。</p> ○チーム運営と職種間連携、求められるリーダーシップ（3時間） <p>（講義）研修受講に当たり、介護職チーム運営、職種間連携の考え方、チームアプローチ手法、チーム内における価値観や専門的知識の共有手法、チーム内・職種間調整能力、コンフリクト解決方法等を概</p>

	<p>ケーション</p> <p>(キーワード) 介護の専門性、尊厳、自立支援、チーム、チームアプローチ、連携、コミュニケーション能力、態度、価値観、専門的知識の共有、コンフリクト、調整能力</p>	<p>括的に説明し、それらの理解の重要性を学ぶ。 (演習) 講師の提示した介護職チーム事例を基に、チーム内のリーダーとしての態度、他職種との連携の在り方や、認定介護福祉士に必要なコミュニケーション能力について議論し、全員で共有する。</p> <p>○事後課題 (3時間) 講義・演習の内容を踏まえ、認定介護福祉士養成研修を受講するにあたり、①自職場において介護職チームが抱える課題にどのように取り組むか、②地域において認定介護福祉士としてどのような活動を行うべきかについて、それぞれ 1200 字程度でまとめる。</p>
研修方法	<p>■通学課程 (集合研修)</p> <p>■課題学習</p>	<p>○集合研修講義と演習を組み合わせて行う。</p> <p>○課題学習は、事前課題①：資料を読み自己学習、事前課題②：レポート課題。事後課題としてレポート課題 2 種を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	15 時間 (集合研修 8 時間、課題学習 7 時間)	
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。やむを得ない事情による遅刻、早退については 30 分を上限として認める (別途課されるレポート課題により代替)。30 分を超える遅刻、早退は認めない。尚、事前課題②の提出がない場合は、出席を認めない。</p> <p>○事後課題は S~D の 5 段階評価 (S:100~90 点、A: 89~80 点、B: 79~70、C:69~60、D: 59 点以下) とし、D 評価の場合は再提出を求める。事後課題の提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>	
講師要件 (講師の選定基準)	<p>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</p> <p>・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</p>	
(2) 受講者について		
受講対象 (受講要件)	<p>(1) 次のアに加え、イまたはウのいずれかが満たしていること。</p> <p>ア 介護福祉士資格取得後の実務経験 5 年以上 (実務経験の考え方は介護福祉士国家試験の受験資格に準ずる)</p> <p>イ ファーストステップ研修を修了していること。</p> <p>ウ 介護職員を対象とした現任研修の受講歴として、100 時間以上の履歴を有し、当会の課すレポート課題又は受講試験において一定水準の成績を修めていること。ただし、研修時間が 200 時間以上の研修または認定介護福祉士認証・認定機構の定める研修を修了している場合は免除する。</p> <p>(2) 次のオ又はカを満たすことが望ましいこと。</p> <p>オ 介護職の小チーム (ユニット等、5~10 名の介護職によるサービス提供チーム) のリーダー (ユニットリーダー、サービス提供責任者等) としての実務経験を有すること。</p> <p>カ 居宅、居住 (施設) 系サービス双方での生活支援の経験があること。</p>	
修了評価 (習得度、研修成果)	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。</p> <p>③事後課題「さまざまなチームを構成し成果をあげるためにはリーダー自らの価値観が影響する。本科目を終えて、今まで体験した事例を交えて学んだことを 1600 字程度 (A4 レポート 1 枚) にまとめる。」 この課題評価が S~C であること。D 評価の場合は再提出を求め、C 以上の評価を得なければならない。なお、評価基準として別紙 4 の評価表を使用する。</p>	
(3) 研修の環境条件		
定員 (講師の配置基準)	30 名 (講師 1 名)	
開催場所 (都道府県)	東京都	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 令和3年8月15日(日)
	②
	③
開催場所(会場)	① 東京YMCA医療福祉専門学校(国立市富士見台2-35-11)
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当する講義等：認定介護福祉士概論
	太田貞司神奈川県立保健福祉大学名誉教授
	神奈川県立保健福祉大学大学院(前期・後期課程：介護福祉論等)、聖隷クリストファー大学大学院(前期課程：介護福祉論)、京都女子大学大学院(前期・後期課程：介護福祉特論等)非常勤講師。【略歴】1947年北海道生まれ。福祉事務所・病院・保健所でSW勤務。帝京平成短期大学、広島女子大、北海道女子大学、神奈川県立保健福祉大、聖隷クリストファー大学、京都女子大学で介護福祉論、高齢者福祉論、社会福祉概論等担当。2020年京都女子大退職。文学士(北海道大学文学部1970)。学術博士(北九州大学大学院社会システム研究科2005)。長野県・静岡県・三重県・京都府開催の認定介護福祉士概論を担当。【専門】社会福祉学、介護福祉論、地域ケア論。地域ケア及び介護人材が研究テーマ。【委員会・学会等】：国家試験介護福祉士試験委員、「認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会」委員長、「介護福祉士国家試験の在り方検討会」座長等を歴任。一般社団法人認定介護福祉士認証・認定機構副理事長(2015年～)、日本介護福祉学会会長(2015年～)。【著書】『在宅ケアの条件』(1992)、『生活文化を支える介護』(1996、編)、『地域ケアシステム』(2003)、地域ケアシステム・シリーズ全4巻編集代表(2009～2012)(『地域包括ケアシステム—その考え方と課題』『医療制度改革と地域ケア—急性期病院から慢性期病院へ、そして地域・在宅へ』『地域ケアシステムの変革主体—地域ケア・当事者・住民』『大都市の地域包括ケアシステム—「見えにくさ」と「描く力」』)、地域ケアを拓く介護福祉学全6巻監修(2014～2015)、『介護福祉士実務者研修テキスト全5巻』中央法規(2020、共編)、『介護職員初任者研修テキスト全2巻』中央法規(2020、共編)、「ホームヘルプサービスと「医療対象者」—「医療対象者」へのホームヘルプサービス導入の経緯」(岡上和雄等編『精神障害者のホームヘルプサービス—そのニーズと展望』2001)、「日本における介護福祉思想の起点」(『介護福祉思想の探求』2006、共著)、「地域ケアと地域福祉—介護福祉士養成の課題」(『介護福祉教育の展望』2008、共著)、「介護教育からみた介護福祉士のキャリアアップ」(2012)「一

	<p>番ヶ瀬社会福祉論と介護福祉論」岩田正美・田端光美・古川孝順編『一番ヶ瀬社会福祉論の再検討―生活権保障の視点と広がり』（2013）等。【論文】「在宅ケアの課題に関する試論―老人介護事件の検討から」（1987）、「フィンランドのラヒホイタヤーケアワーカーの再考」（2012）、「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」（2017）、「「介護福祉実践」事象をめぐる論争：1990年代後半-2000年代」（2018）、「域共生社会と介護福祉士・職能団体の課題」（2018）、「「介護福祉実践」事象をめぐる論争：1990年代後半-2000年代（続）」（2019）、「日常生活の営み」支援における介護福祉の対象―1990年代後半から2000年代にかけての議論―」（2020）等。</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	東京都介護福祉士会 事務局
研修の企画運営に関する諸 規程	東京都介護福祉士会定款に準ずる
研修管理責任者職名	東京都介護福祉士会 会長
研修管理責任者氏名	永嶋 昌樹
機構問合先部署	東京都介護福祉士会
機構問合先担当者氏名	望月 太敦
機構問合先電話番号/FAX	TEL 03-5624-2821 / FAX 03-5624-9650
機構問合先 e-mail アドレス	tokaigo.taccw@gmail.com
受講問合先部署	東京都介護福祉士会 事務局
受講問合先担当者氏名	望月 太敦
受講問合先電話番号/FAX	TEL 03-5624-2821 / FAX 03-5624-9650
受講問合先 e-mail アドレス	tokaigo.taccw@gmail.com
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	東京都介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	紙媒体及びデータにより管理し、データはバックアップをとる。紙媒体は鍵のかかる書庫で保管し、個人情報の取り扱いは法令を遵守する。台帳管理は10年とする。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点で、東京都介護福祉士会の会長名で科目修了証を発行する。
管理責任者氏名	会長 永嶋 昌樹
管理担当者氏名	内田 千恵子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 認定介護福祉士養成研修導入

科目名 認定介護福祉士概論（認定介護福祉士の役割と実践力）

集合研修の総時間数 8時間

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 (補助講師)
10:00～12:15 (45分×3=135分) 3時間	認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性	まず、認定介護福祉士研修受講に当たり、認定介護福祉士の役割の理解促進のため、介護をめぐる社会的動向と介護福祉士及び介護職チームの役割の変化について、尊厳、自立等の介護・介護福祉の理念を視点に、日常生活の営み支援及び地域包括ケアシステムの展開を学ぶ。 研修受講に必要な、認定介護福祉士に求められる役割と実践力の理解促進のため、地域医療・介護保険・地域福祉の3つの視点から、地域包括ケアの展開、介護福祉実践の展開を説明し、多職種協働のチームケア、介護職チームの重要性とその課題を学ぶ。	○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性 ・介護をめぐる社会的動向（地域包括ケアシステムと医療・介護連携等）と介護福祉士の役割の変化 ・認定介護福祉士に求められる役割と実践力（根拠ある生活支援、介護職のチーム運営・マネジメント、職種間連携、地域連携）	太田貞司
12:15-13:00 昼休み（45分）				
13:00～14:30 (45分×2=90分) 2時間	介護現場における介護職チームの運営に関わる様々な問題とその要因	（演習）研修受講に必要な、介護職チームの運営に必要な問題理解を深めるために、事前課題②をグループ内で共有し、課題の要因と、受講者である自分がとるべきであった行動、解決できた要因についてディスカッションする。	○介護現場における様々な問題とその要因 ・職種間または組織間に起こりやすい問題 ・利用者への関わり方や介護観の相違により起きる問題	太田貞司
14:30-14:45 休憩（15分）				

<p>14:45-17:00 (45分×3=135分) 3時間</p>	<p>チーム運営と職種間連携、 求められるリーダーシップ</p>	<p>(講義) 研修受講に当たり、介護職チーム運営、職種間連携の考え方、チームアプローチ手法、チーム内における価値観や専門的知識の共有手法、チーム内・職種間調整能力、コンフリクト解決方法を概括的に説明し、それらの理解の重要性を学ぶ。</p> <p>(演習) 講師の提示した介護職チーム事例を基に、チーム内のリーダーとしての態度、他職種との連携の在り方や、認定介護福祉士に必要なコミュニケーション能力について議論し、全員で共有する。</p>	<p>○チーム運営と職種間連携、求められるリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームを構成する職種間連携 各職種の役割・機能の理解 ・チームケア・チームアプローチとは何か ・チームにおける介護観・援助目標の共有化 ・チーム内・職種間の調整 ・チームメンバーとのコミュニケーション 	<p>太田貞司</p>
---	--------------------------------------	---	--	-------------